

【日本の大学】第89回—島根大学：自然と共生、豊かな社会の発展図る

島根大学は本州日本海側西部、島根県の県庁所在地である松江市に本部があり、文系、理系、医系に及ぶ学問領域をカバーする国立の総合大学である。島根県は、豊かな自然に恵まれ、歴史的文化遺産も多く、大学の憲章では「学術の中心として深く真理を探究し、専門学芸を教授研究するとともに、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努める」と謳っている。

キャンパスは、本部のある松江市と出雲市にある。松江には、法文学部、教育学部、人間科学部、総合理工学部、生物資源科学部の5学部のほか、2023年4月から工学部系の材料エネルギー学部が加わった。出雲には医学部のほか、医学系の大学院や附属病院などがある。各学部は、伝統的な学問の継承、知の創造とともに、社会・産業構造の変化に対応し、現代的課題の解決に向けた教育・研究を推進。その実現のため、県内各地におけるフィールド学習、海外での留学・研修を活発に実施している。



大学正門

以下、島根大学のホームページを中心に、大学の状況を見ていこう。

1949年5月に新制島根大学として発足した時は、文理学部と教育学部の2学部だった。

文理学部の前身は1920年に創設された旧制松江高等学校であり、教育学部の前身はさらに古く、明治時代の初め1975年にできた島根県小学教員伝習所である。その後、松江師範学校、島根県師範学校などの系譜を経た島根師範学校と、島根青年師範学校が母体となり、教育学部につながった。

文理学部は1966年に文学科、法学科、理学科の3学科体制となったが、1978年には、それらの学科を改組して法文学部、理学部の2学部へと衣替えした。大学院の理学研究科は1985年に、法学研究科は1988年に設置された。

法文学部は1996年に法学科、社会システム学科、言語文化学科の3学科に改組、さらに、2004年には、法経学科、社会文化学科、言語文化学科に改められた。法文学部は、理念として、この地域の歴史・伝統文化・豊かな自然や、過疎・中山間地・社会の高齢化などの問題が山積していることを踏まえて、現代社会や地域社会が抱える諸課題に対応した先端的、学際的な研究を推進している。同時に、それら様々な問題を解決することのできる広い教養と基礎的専門知識を身につけ、創造的・実践的能力を有する人材を広く育成することを目的としている。



松江高等学校校址

教員養成に特化

教育学部は前身の師範学校から数えて150年近い伝統の下で、現在は、「教員養成に特化した学部」としての役割を重視し、「これからの教育を創造していく教師の育成」を目標に掲げている。幼稚園、小学校、中学校（各教科）、高校（各教科）、特別支援学校という五つすべての教員免許の取得ができる態勢を取っている。学部生は、卒業研究を通して学ぶ「主専攻」に加えて、幅広い知識と技能を得るために選択する「副専攻」、さらに必要な教員免許を取得する際に選択する「免許プログラム」を組み合わせることで3枚以上の免許取得が可能な仕組みを用意している。これらを補強するために大学では、付属の教育支援センター、教師教育研究センター、FD戦略センターといった組織を設けて学生をサポートしている。



教育学部南側のイチョウ

農学部は1965年に島根県立島根農科大学を国立の島根大学に移管することで農学部として誕生した。67年には付属農場や付属演習林を設置、同時に大学院農学研究科も開かれている。また、大学院の博士課程は、1989年に鳥取大学、山口大学と協力して、大学院連合農学研究科博士課程が鳥取大学に設置されている。

1978年に誕生した理学部は、未来の最先端科学技術を担う工学系分野を取り入れ、さらに、農学部を融合・改組することによって1995年に総合理工学部と生物資源科学部となった。この際、理学部付属の臨界実験所は、農学部の付属農場、付属演習林とともに、新たに

発足した生物資源科学部の付属となった。これらはそれぞれ農業生産科学部門、森林科学部門、海洋生物科学部門として同学部付属の生物資源教育研究センターとなっている。

総合理工学部は、物理工学科、物質化学科、地球科学科、数理科学科、知能情報デザイン学科、機械・電気電子工学科、建築デザイン学科の7学科を擁して、基礎科学から先端応用技術までの広い分野の教育と研究を進めている。

生物資源科学部は、生命現象の基本原則から、生物資源の育成、利用、開発保全と、それを育む環境に関する幅広い分野の教育研究を行っている。3学科、12のコースからなっている。生命科学科（細胞生物学コース、水圏・多様性生物学コース、生命機能化学コース、食生命科学コース）、農林生産学科（資源作物・畜産学コース、園芸植物科学コース、農業経済学コース、森林学コース）、環境共生科学科（環境生物学教育コース、生態環境学教育コース、環境動態学教育コース、地域工学教育コース）である。



総合理工学部

医科大学と統合

医学部の前身である島根医科大学が設置されたのは1975年である。附属病院の設置（1979年）、大学院医学研究科博士課程の設置（82年）、医学部看護学科の設置（99年）などのあ

と、島根大学と島根医科大学が統合したのは2003年である。その際、大学院医学系研究科修士課程が設けられている。生命の尊厳と患者の権利・人格の尊重を教育の理念としており、広い教養と高い倫理観、科学的な探究心と総合的な判断能力を身につけ、時代の要請に応じて地域に貢献する医師・看護師を養成することを目指している。

法文学部から分離して人間科学部が誕生したのは2016年である。からだ・こころ・つながりという人間の三つの側面に焦点を合わせた学部であり、これら3側面に対応した健康科学、心理学、社会福祉学という学問分野を核として、人間という存在に文理融合的にアプローチしていく。

健康科学に関しては、「身体活動・健康科学コース」があり、運動やスポーツに関わる身体行動科学と、健康に関わる広い分野を包摂する生活科学とを中心に、地域住民の健康問題の解決を目指す考察力と実践力を養う。「心理学コース」では、人の心や行動の仕組み・働きについて、実験真理と臨床心理（科学的なアプローチと実践的なアプローチ）双方の知見から学ぶことで、人間への理解を深め、多様にアプローチする力を養う。「福祉社会コース」では、社会福祉士と精神保健福祉士の受験資格取得に必要なカリキュラムを網羅し、「人をささえる」という視点から、福祉に関わる多様な問題の解決に向けた考察力と実践力を養う。



医学部の使命 『医の炎』・『医の扉』

材料からエネルギー問題を解決

2023年度に新設された材料エネルギー学部は、機能性材料を含む金属分野、有機・無機

化学の分野など広範な“材料”を教育研究対象とし、さらに情報系が加わって、エネルギー問題の解決を材料の視点から取り組んで事業化を目指していく。

海外留学、外国人留学生の受け入れ、海外の大学との学術協定など国際交流に関しては島根大学国際センターが担っている。1998年開設の留学生センターを引き継いで2007年に発足した国際交流センターを2021年に名称変更した。近年では、年間約300名の学生の海外派遣や、200名以上の留学生の受け入れを行っている。

海外の大学・部局間と協定を結んでいる先は27か国の103機関に上っている（2023年5月現在）。外国人留学生数は中国、バングラディッシュ、マレーシア、韓国などから計244名である（2023年5月現在）。

学生数は学部生が5255（うち女性2223）人、大学院生が616（うち女性212）人。教員数は748人である。（2023年5月現在）

現在の学長は、服部泰直氏である。筑波大学第一学群自然科学類卒、大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程修了。1993年島根大学理学部助教授、95年教授、2011年総合理工学部長、2012年総合理工学研究科長などを経て2015年から現職。専門は位相数学。

日文：滝川 進

写真：島根大学 Facebook